

諏訪之瀬島の火山活動解説資料（平成 23 年 12 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

御岳火口^{おたけ}では、噴火¹⁾は発生しませんでした。長期にわたり噴火を繰り返しています。今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石に注意が必要です。

平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 12 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 3、図 5、図 6）

御岳火口^{おたけ}では、爆発的噴火²⁾を含む噴火は発生しませんでした。長期にわたり噴火を繰り返しています。噴煙の最高高度³⁾は火口縁上 400m（11 月：600m）でした。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測しました。

19 日に、海上自衛隊第 72 航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査では、御岳火口底の中央部で高温域が認められました。

・地震や微動の発生状況（図 3、図 4）

火山性地震は少ない状態で経過しました。月回数は A 型地震⁴⁾が 30 回（11 月：63 回）、B 型地震⁵⁾は 17 回（11 月：94 回）でした。

火山性微動は観測されませんでした（11 月の微動継続時間の合計：28 時間 30 分）。

- 1) 諏訪之瀬島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは噴煙量が中量以上（概ね噴煙の高さが 1,000m 以上）の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。また、基準に達しない噴火は、ごく小規模な噴火としています。
- 2) 諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、島内の空振計で一定基準以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としています。
- 3) 2003 年 3 月 28 日以降、噴煙の最高高度は遠望監視カメラによる観測値と十島村役場諏訪之瀬島出張所の報告のうち高い値を用いています。
- 4) P 相や S 相が明瞭で高周波成分が卓越する地震です。
- 5) P 相や S 相が不明瞭で低周波成分が卓越する地震です。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 1 月分）は平成 24 年 2 月 8 日に発表する予定です。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図 1 諏訪之瀬島 12月17日の状況（寄木遠望カメラによる）

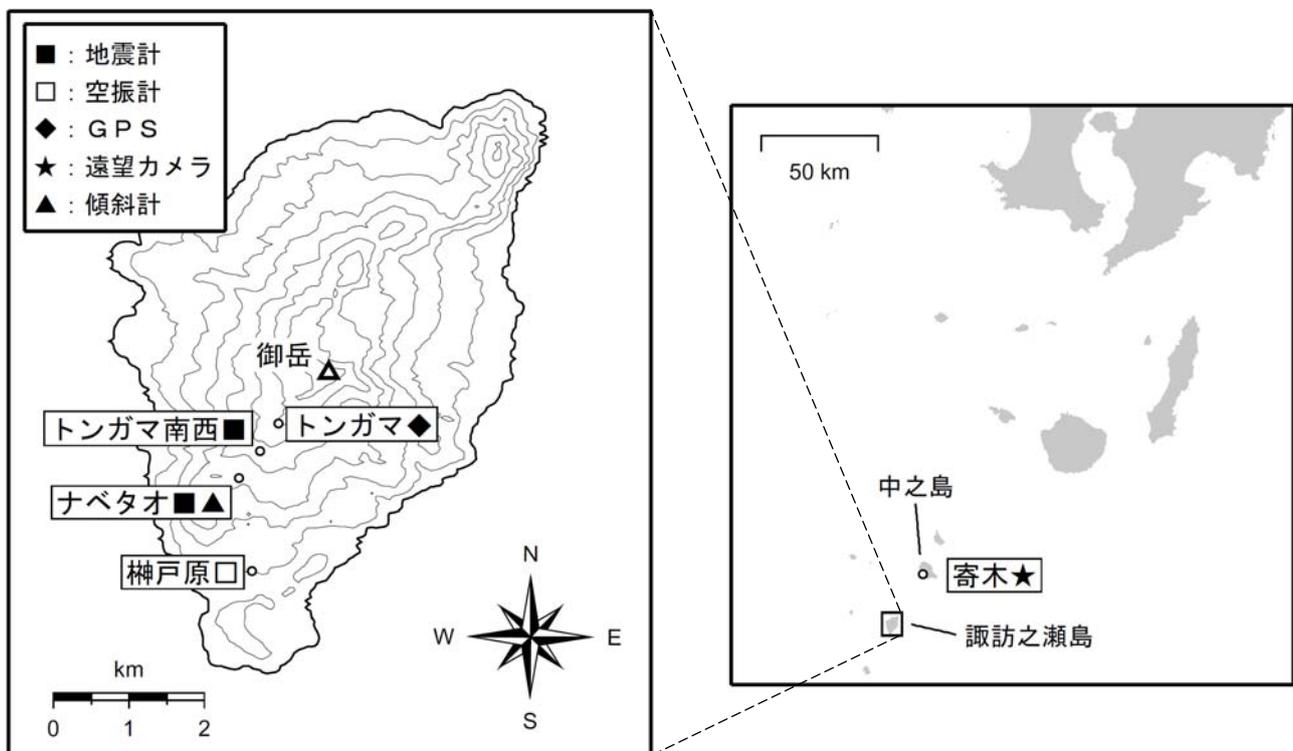


図 2 諏訪之瀬島 観測点配置図
小さな白丸は気象庁の観測点位置を示しています。

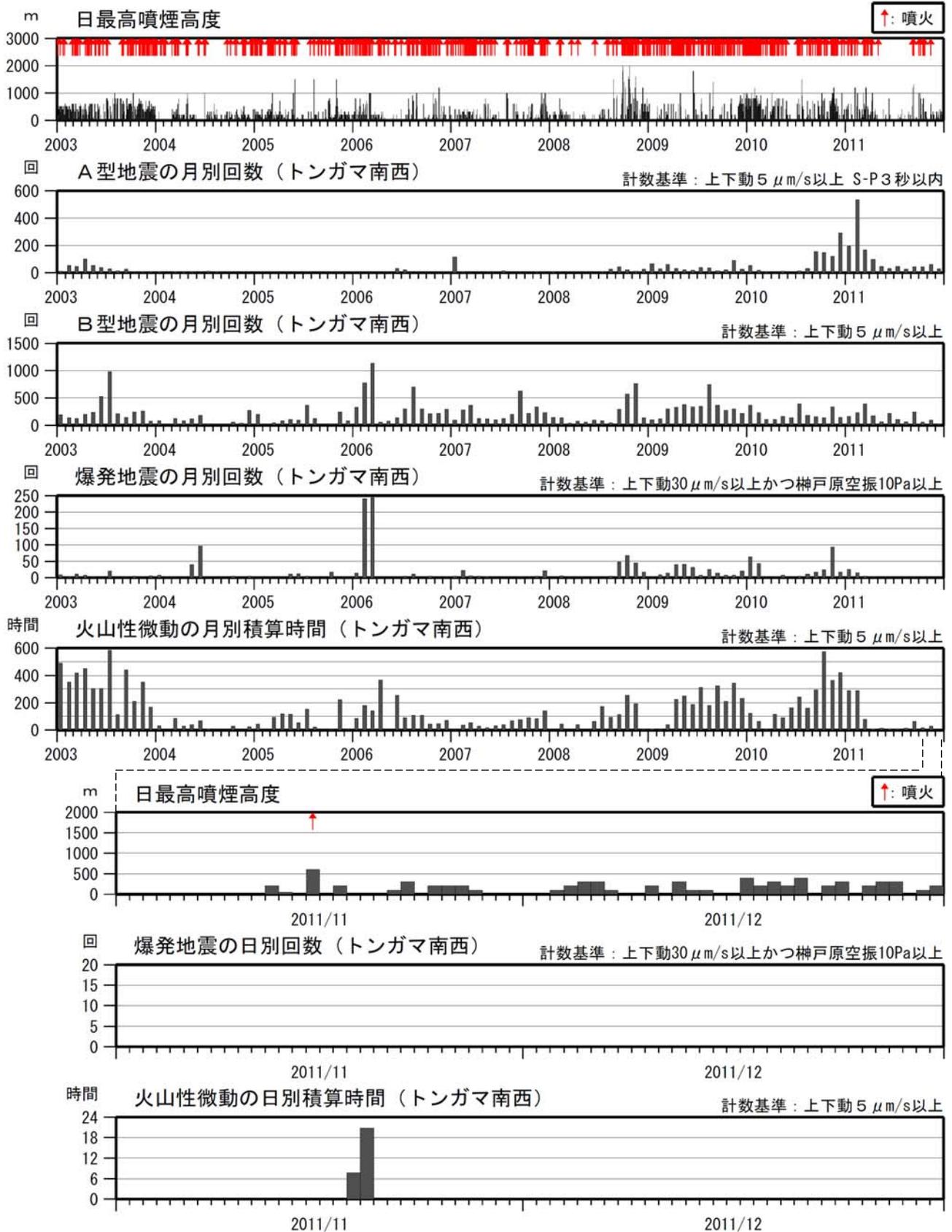


図3 諏訪之瀬島 火山活動経過図（2003年1月～2011年12月）
 長期にわたり噴火を繰り返しています。

<12月の状況>

- ・爆発的噴火を含む噴火は発生しませんでした。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しました。

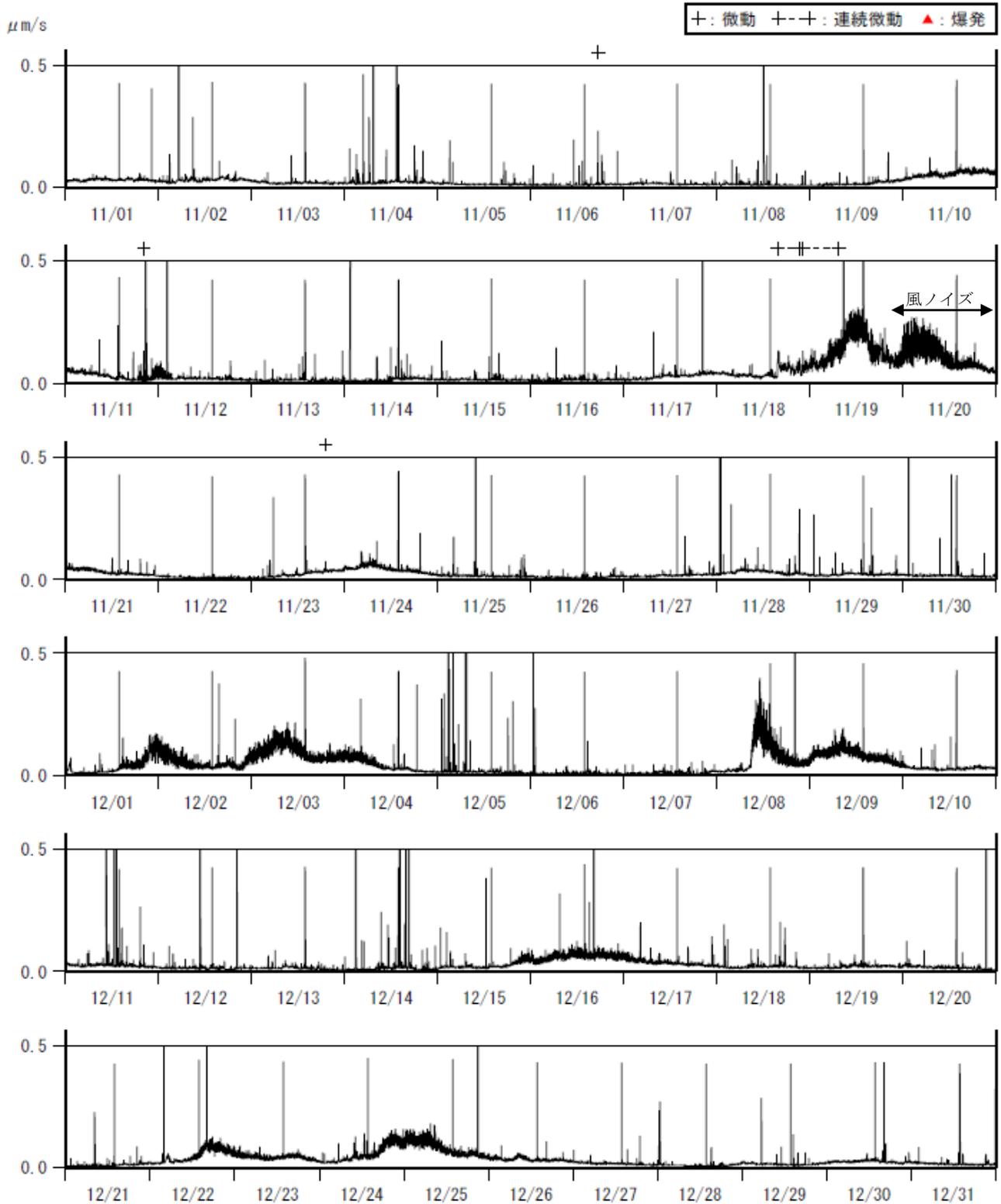


図 4 諏訪之瀬島 1 分間平均振幅の時間変化（ナベタオ上下成分）

（2011 年 11 月～2011 年 12 月）

<12 月の状況>

火山性微動は観測されませんでした（11 月の微動継続時間の合計：20 時間 30 分）。

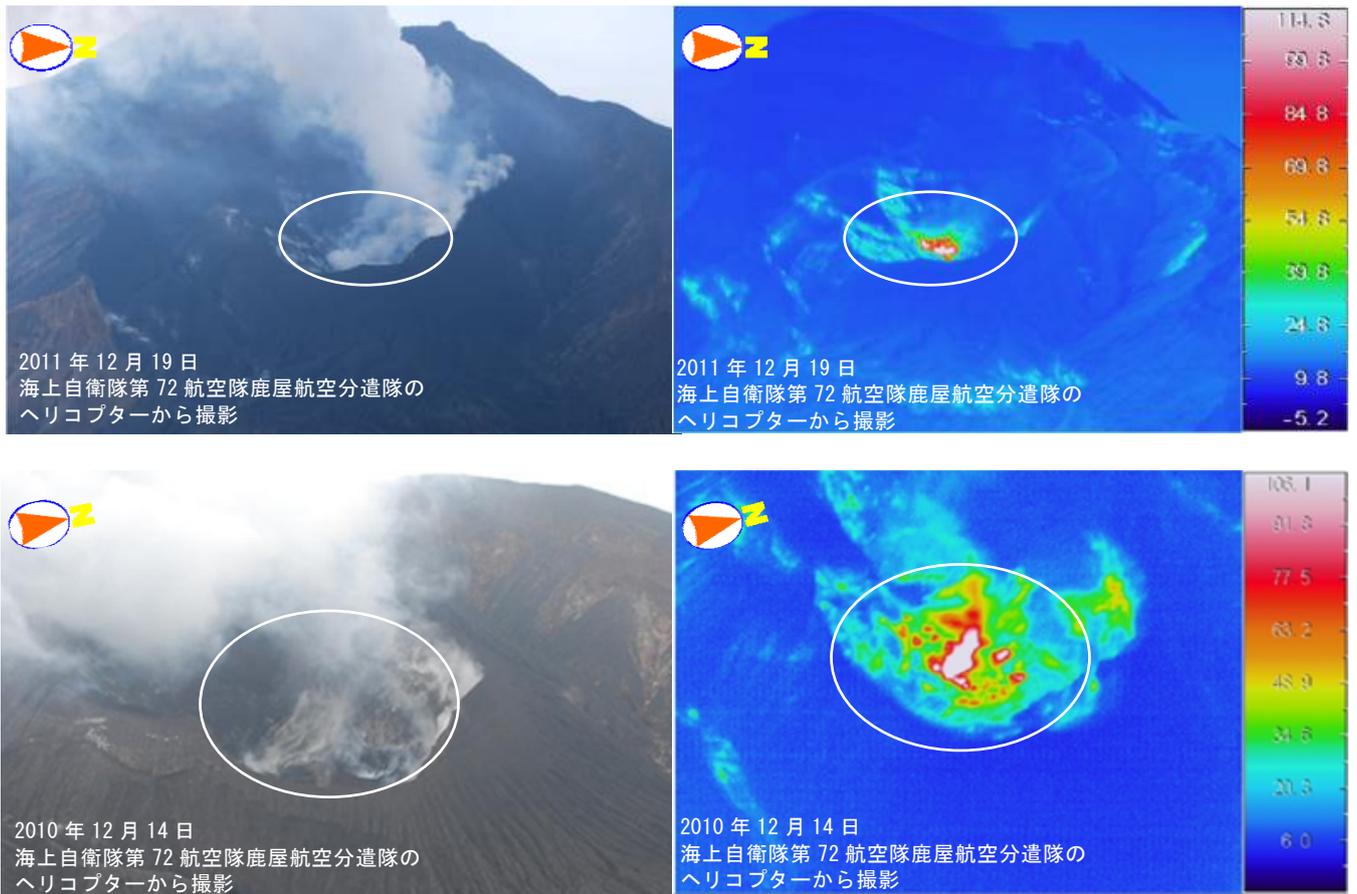


図5 諏訪之瀬島 御岳火口の状況(左)及び赤外熱映像装置⁶⁾による火口付近の地表面温度分布(右)

- ・御岳火口中央部（白丸）で高温域が認められました。
- ・前回（2010年12月14日）と比べ特段の変化は認められませんでした。

赤外熱映像の温度表示は熱異常域ではない領域の平均温度で調整して表示しています。

6) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

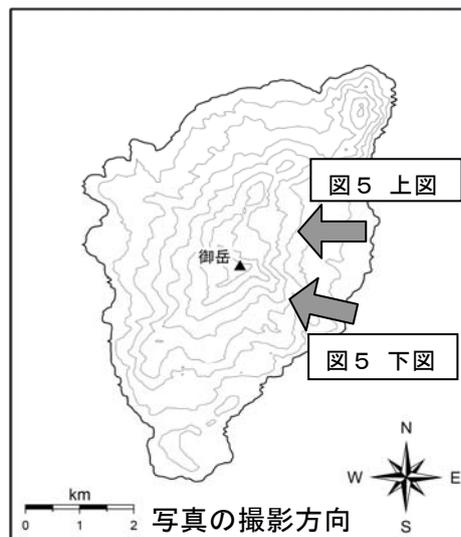


図6 諏訪之瀬島 上空からの観測の観測位置

矢印は上空からの撮影方向を示しています。